

安瀬神社の絵馬

◀安瀬神社に
奉納された「大絵馬」



厚田区安瀬は、かつて厚田屈指のニシン漁場で、道会議員を勤め全道一の漁業者と言われた佐藤松太郎や横綱の吉葉山（いずれも厚田村名誉村民）の出身地でもあります。ニシン漁場にはお稲荷さんがつきもので、安瀬でも天保元

（1830）年に

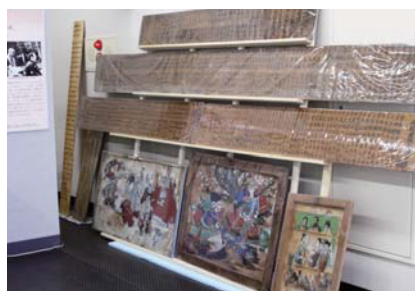
稲荷社が創建され、安瀬神社としてニシン漁業の

盛衰を見守って来ました。しかし、ニシン漁の衰退とともに安瀬神社の氏子も減り続け、平成18年には御神体を厚田神社に移し、廃社となりました。

この絵馬は安瀬神社に残された奉納物のひとつで、縦76cm 横102cmあります。額の

右側に「明治十七年」、左側に「池田米吉」とあります。私たちが初詣で買うような小型のものは「小絵馬」、このような額に入った大きなものは「大絵馬」と言います。一般に「小絵馬」は安産、健康、学業成就など身内の現実的な利益を願う際に用いられ、「大絵馬」は自分が属する会社や村全体の繁栄や平和を願って奉納されることが多いと言われます。

絵馬には桜の木の下に二人の武将が描かれています。向かって右側の床几に座っている人物は、鎧に「笹竜胆」の紋があり、おそらく源義経でしょう。もうひとり、なにやら立て札のようなものを抱えています。歌舞伎の「熊谷陣屋」にこのようなシーンがあるので、これがたとすれば時代は現在放送中のNHK大河ドラマ「平清盛」の少し後、平氏の滅亡が決定的となった二谷の合戦のころです。左側の立て札（制札）を抱えている人物は熊谷次郎直実と考えられます。それではいったい何を願って



（写真上下ともに）
厚田資料室▶

この場面が描かれたのでしょうか。それは今のところよく分かりません。あるいは別の場面を描いているのかもしれませんが。お分かりの方はぜひお教えください。

現在、この絵馬は安瀬神社への奉納者名を書いた板額などと二緒に厚田資料室で展示をしています。この奉納物の中には戸田城聖、吉葉山、佐藤松太郎の親類などゆかりの人々の名前を読み取ることが出来ます。厚田区の歴史を示す資料をぜひ一度ご覧下さい。（工藤義衛）

※熊谷陣屋
歌舞伎「谷嫩軍配」の三段目。二谷の合戦の際、義経は平敦盛の命を救うため、そのことを暗示する制札を熊谷直実に与える。熊谷直実はわが子小次郎を身代わりして首を差し出し、世の無常を感じて出家する。